

いまだからこそできること

県民せいきょう岡保きらめき

新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域での活動の自粛を余儀なくされ、話し合いの場でさえも十分に確保することが難しい状況が続いている。そのような状況になった当初は、マスクが不足し、全国的に深刻な状況があった。

新型コロナウイルスの影響でマスク不足となっていた時、県民生協の介護施設「岡保きらめき」をご利用する方たちが、ドラッグストアに大勢が並ぶニュース映像を見て、「あれ何の行列なの?」「みんな困っているから何かの役に立ちたい」とつぶやかれた。その会話を聞いていた、他のご利用者の方が「そんなもん、昔は自分で作ってたんやけどね」なにげない会話をきっかけに、賛同するご利用者の方たちが集まり、マスク作りが始まっていった。

2020年1月「きらめき工房」を立ち上げ、裁縫の経験を生かしみんなで協力し合いながらマスクを作り続けた。マスクは、さまざまな

絵柄のガーゼ布と糸やゴムが材料で、手洗いして繰り返し使えるタイプ。布を折りたたむ人、ミシンを掛ける人、ゴムを通す人、結ぶ人と、工程を10段階近くに分け、ご利用者約20人がそれぞれできる作業に交代で取り組んだ。地元の園児たちに116枚、社会福祉協議会に60枚のマスクを贈呈することができた。

また、地域の希望される方やメディアを通じて、これまで合計1057枚販売した。現在も、マスク以外にもご利用者が考えた、エコバックにも使える「あずま袋」や「コースター」を製作し、ご利用者の「楽しみ、生きがい」へと繋がっている。

今までできていた、集まって、話し合って、泣いて、笑っての交流ができなくなった。何とも恨めしいコロナ禍。それでも、知恵と工夫で、みんなのためにと頑張っている姿に、わたしたちは勇気づけられている。



コロナ禍、もう一つの聖火リレー

蟻塚 光男

令和元年夏、美山地区で、週一回、認知症予防の為にカフェを行っていた私は、美山地区のお年寄りと一緒に東京オリンピックを楽しむかと思いい、聖火ランナーに応募し採用された。しかし、コロナで、オリンピックは1年延期。そして、身内がコロナで他界。、「辞退しようか」。そんな時に、カフェの90歳のお年寄りから「来年楽しみや、それまで頑張るぞ」と電話がありました。電話であっても、心からの笑顔は、私の心に直接響き、背中を強く押されました。「一緒に楽しみましょう！」私は思わず元気に答えました。

令和3年5月30日、本番当日、最高の天気と歓喜の中で、煌々と光る聖火トーチを初めて見上げました。その瞬間に、不思議な世界が広がり、私は、周りの方々の笑顔で包まれた感覚になりました。「このトーチを、多くの人に、見て、触ってもらおう！みんなを笑顔にする

ことができるかも！」。翌日、例のお年寄りから電話がかかってきました。「ありがとう！感動したよ！長生きしてよかった！」、電話の向こうで、喜び、涙を流している様子が伝わってきました。私も「ありがとうございます！私も、感動しました！」と答えました。

集まることのできない今、この感動を伝えるために、このトーチは、学校、公民館、こども園、児童館、障がい者施設、高齢者施設等を巡っています。もちろん、コロナ禍の暗い雰囲気を打ち消す「満面の笑顔」と「元気」を皆様から引き出すために。



タイ王国から福井への応援

ペンネーム ケン

世の中に、新型コロナウイルスの感染が広がってから約2年になった。コロナの影響で様々なことが失われたと思う。例えば、幸福な生活や仕事、大切な人を失った。あなたは「なぜ私はこんなことに遭遇しなければならぬの?」と考えるかもしれないが、「あなたは一人ではない」。

私はタイで生まれ、日本語、日本の文化に深く興味を持ったため、日本に留学した。そこからもっと日本を好きになり、タイと日本を行き来する生活をしていた。コロナ禍でその生活はなくなった。日本でやりたいことをできなくなり、母国で退屈な生活をしていた。ある日、私は仕事で日本に行くことになった。タイから日本に移動するだけで2週間もかかる。コロナに負けたくない私は2週間かけて移動して来た。私の仕事は技能実習生関係で監理団体の通訳を担当している。私の監理団体はタイ人技能実習生を支援している。タイ人技能実習生達に「なぜ日本で技能実習生になりたいの?」と聞いたところ、

「私達は将来のために、日本で技術や日本語を学んで、貧しい生活から抜け出したいから。」と答えた。彼らの夢を叶えるまで、私は支援していきたい。コロナ禍で入国できないタイ人達は時間を無駄にせず、入国できるまで熱心に日本語を勉強している。

コロナ禍でずっと大変だと思うが、タイ技能実習生たちとコロナ禍を乗り越えるため一緒に頑張りたい。



コロナ禍での応援に感謝!!

平良民枝

だれでも食堂夕焼けこやけは、コロナ禍の中で、今年の6月よりはじまりました。テントを張り、社協からの助成金で野外のテーブルや椅子を準備させていただきました。コロナ禍だからこそ、孤独を抱えたり、いろんな生き辛さを抱えておられる皆さんのほっとできる居場所が必要と思いました。

ところが、逆に、こちらが励まされています。いつか安心して地域の皆様方が来れるようになる日を、わくわくして待ちなさいと、励ましと勇気をたっぷりいただいているのです。具体的には、近くのプーさん食堂の方が、しばらく開催できなくなっていることもあり、夕焼けこやけの応援に毎回、顔を見せてくださいます。

また農家の方が、十分に食事ができない子どもたちには何とかお腹いっぱい食べてもらいたいとお米やお野菜を届けてくださいました。参加者の一人が、お仕事柄、ボートと座ってここで過ごすこの時間が私にはとても大切な時間ですと、毎回参加してください

います。ここではじめて会う知らない人だから、逆になんでも、安心して自分のことが話せたと喜んで帰られた方もおられました。

コロナ禍だからこそ、訪れる人も少なく、ゆっくり待つこと、静かに過ごすこと、ここはほっとできる空間になっているのかもしれない。

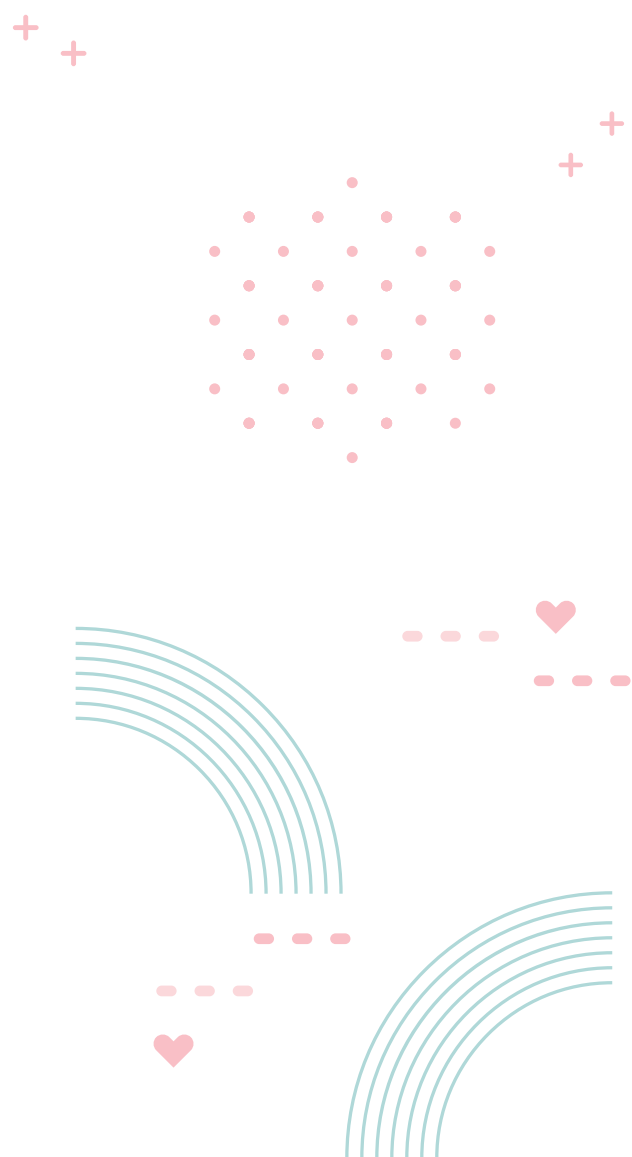
そして、テイクアウトの皆さんとも、ここで話しかけないけど、繋がること、覚え合うことを教えられています。人はひとりでは生きられませんから、人と会うことは大事です。それは、貴重な時間で、丁寧に大事にやりなさいと教えられています。

だれでも食堂のありようも、今後どんな形で広がっていくのかと思いつづけています。



うららはあ元気やで安心しての

コロナウイルス感染症対策により各施設面会制限を行っており、入居者様、家族様共に寂しさや心配を抱える日々を過ごされております。家族様へ入居者様の元気な姿を見て少しでも安心して頂きたいという思いで広報誌に利用者様の素敵な笑顔と共に家族様へのメッセージを込め写真を掲載致しました。感染が早く収束し入居者様、家族様に明るい笑顔が咲きますように。



まだまだ不安な日々が続きますが、利用者様は元気に過ごされています。



1日でも早く 安心して暮らせる日が訪れますように 😊

福泉会広報委員会